

各部の運営方針と目標

平成25年度

平成 25 年 5 月



三鷹市



古紙配合率80%の
再生紙を使用

平成25年度『各部の運営方針と目標』の策定にあたって

このたび、平成25年度の『各部の運営方針と目標』を策定しました。

『各部の運営方針と目標』は、市民の皆様に向けた「行政の説明責任の確立」と行政の主体的な行政評価による効率的・効果的な「成果重視の自治体運営」をさらに前進させるため、私が市長に就任した平成15年度から公表しています。

長期にわたって厳しい財政状況が継続する近年、三鷹市では行政サービスのスリム化・効率化を図ることを目的とした「事務事業総点検運動」「公共施設総点検運動」等に積極的に取り組んでいます。本年度は『各部の運営方針と目標』を含む行政評価制度の導入後10年が経過することを契機に、従来の行財政改革の取り組みを発展的に改善するために、新たな行政評価の手法を試行します。また、今年度予算編成時から各部の重点事業の中に「細かな配慮と創意工夫によって経費をかけずに事業の成果や市民満足度を高める取り組み」については「ゼロ・アップ創造予算」として積極的に位置づけて推進することとしました。

三鷹市では、各職場が受け止めている市民の皆様のニーズを基礎にした各部の主体的な問題意識を政策に反映させるため、毎年10月に市長・副市長・教育長の理事者が各部との協議を重ねる「政策会議」を開催しています。この会議では、当年度事業の進捗状況を確認し、各部長等から新年度に向けた意欲的な新規事業等の提案が行われ、市長はじめ理事者の市政運営の理念及び問題意識や提案との整合性を図りつつ最適な新規事業等へと集約しています。ここに掲載している今年度の『各部の運営方針と目標』については、昨年秋に議論を開始しており、短期的及び中長期的な視点、新規の政策や既存の政策との整合性、補助金等の財源との関係等の「多元的視点」に立って政策議論を展開した成果です。

三鷹市は、こうした「活発に政策論議を行う風土」を活かして、今後の三鷹市政の方向性を全庁挙げて共有しつつ、厳しい社会経済状況等を考慮した実現性の高い運営方針と目標の設定へと調整を図っているのです。

このような過程を経て策定した『各部の運営方針と目標』は、各部の部長の名前を掲載し、「市民の代表」である市長と「部の管理者」である部長との「成果契約」として市民の皆様公表します。そして、部長の責任と権限のもとに自立的な各部の運営による着実な経常業務の遂行と、政策実現過程での諸課題の解決に向けた各部の機動力と応用力の発揮による柔軟な対応が図られてきています。

今年度も、地方交付税不交付団体である三鷹市政を取り巻く状況は依然として厳しいものがあるとはいえ、私は施政方針で掲げた「『都市再生』と『コミュニティ創生』をさらに進め、持続可能な未来に向けて『三鷹市の価値』を高める」ために、この『各部の運営方針と目標』の「市民本位」の達成に向けて、三鷹市役所の強みである「職員力」と「組織力」の最大化・最適化を図りながら、全職員一丸となって取り組んでまいります。

平成25(2013)年5月

三鷹市長 清原慶子

本冊子の構成

本冊子は、それぞれの部ごとに、以下の内容で構成しています。

1 部の使命・目標に関する認識

(1) 部の使命・目標

部の使命・目標・果たすべき役割等を記載しています。

(2) 各課の役割

部を構成する課及び主要な役割を記載しています。

2 部の経営資源

(1) 職員数

部の職員数及び市職員に占める割合を記載しています。

(2) 予算規模

部の予算額及び会計別の事業費等を記載しています。

3 実施方針

総括的な部の取り組みの方針や目指していく姿等を記載しています。

4 個別事業とその目標

平成25年度施政方針等に基づき、重点事業を優先順に記載しています。

[用語について]

◇人財

三鷹市では、通常使われる「人材」ではなく、「財産」「宝」を意味する、「人財」という言葉を使っています。

◇「ゼロアップ創造予算」該当事業

厳しい財政状況の中、持続可能な自治体経営の創造に向けてさらなる行財政改革を推進するために、細かな配慮と創意工夫によって経費をかけずに事業の成果や市民満足度を高める取り組みを「ゼロアップ創造予算」と位置づけ、個別事業又は文中の事業名に記載しています。